

令和6年度 学校評価書

令和7年3月1日

福生市教育委員会 殿

福生市立福生第三中学校
校長 増木一仁 印

1 今年度における重点的な取り組み

(1) 学力向上

「主体的に学習に取り組む生徒の育成」

- ・「学ぶ楽しさを感じる授業」「分かる授業」を実践する。
- ・「学び合い、教え合い、高め合う集団の育成」をテーマに研究授業や外部講師を招聘した校内研修会を実施する。
- ・一人1台端末を活用した授業へ取り組む。

(2) 健全育成

「自分の将来に夢や希望をもち、自立して卒業できる生徒の育成」

- ・「安心安全で、認められ、楽しい体験ができる学校づくり」と関わりの中で、他者から認められ、感謝される体験による自尊感情や自己肯定感の育成を図る。
- ・個々の生徒が自らの目標を設定でき、その実現に努力できるように、キャリア教育の充実及び改善を図る。

(3) 学校運営

「組織的な分掌運営による学び続け、学び合う職員文化の醸成」

- ・教職員相互の理解に努め、緊密な連携の下で教育活動を推進する。
- ・特支教育の専門性の向上のために研修会を行う。また校内支援委員会を組織として機能させる。

(4) 特色ある学校づくり

- ・体育祭と音楽会を2大行事と位置付け、生徒の達成感や自尊感情、帰属意識の醸成を図る。
- ・地域に開かれ、地域に信頼され、地域と共に歩む学校づくりを推進する。

2 自己評価の総括

(1) 学力向上

生徒による授業評価

(各授業内で学期末に実施)

教科名

・担当教員名

A. 授業を受けていて、「学ぶ楽しさ」を感じられますか。

- 1 感じる 2 どちらかといえば感じる 3 どちらかといえば感じない 4 感じない

B. 授業を受けていて、どの程度わかりますか。

- 1 よく分かる 2 どちらかといえば分かる 3 どちらかといえば分からない 4 分からない

○『A. 授業を受けていて、「学ぶ楽しさ」を感じられますか。』肯定的評価82%

○『B. 授業を受けていて、どの程度わかりますか。』肯定的評価85%

○生徒	「学校の授業は分かりやすく、学ぶ楽しさを感じる」	81%
○保護者	「授業において教員の努力や授業改善の姿勢を感じる」	82%
○教員	「授業改善に心掛け、年1回以上の研究授業を実施した」	100%

○生徒	「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深め、広げることができている。」	84%
○保護者	「おさんは、生徒間で話し合い、発表する等の活動に積極的に取り組んでいる。」	75%
○教員	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業に取り組んだ。」	100%

- ・福生市研究奨励校として校内研修の研究主題を「学び合い、教え合い、高め合う集団の育成」～対話的な学びの充実を目指して～として、外部講師を招聘した4回の研修会や学期ごとに小グループでお互いに授業を見合う機会を設定し、協議会を重ねることで各教員の授業改善の意識が高まり実践につなげることができた。また、都の研修センターから3名の指導主事を招聘し、全教員の授業観察や授業研究(数学、理科、保健体育)を行い、「主体的な学びの視点」「見通しと振り返りを生かした指導の工夫」「対話的・協働的な学び」等の理解が深まり、授業改善への意欲が高まった。

○生徒	「積極的にiPadを使って学習を行っている。」	74%
○保護者	「おさんは、積極的にiPadを使って学習を行っている。」	64%
○教員	「積極的にiPadを使った授業等にも取り組んだ。」	92%

- ・一人1台端末を活用した授業への意識は高くなっているが、より効果的な活用ということで情報交換を活発にすることが大切である。

○生徒	「毎日家庭で学習する習慣ができている(塾や習い事を除く)」	53%
○保護者	「おさんは、言われなくても進んで家庭学習に取り組んでいる」	52%
○教員	「家庭学習の習慣を確立のための指導を行い、工夫した」	75%

- ・「学習習慣の確立」は依然として本校の課題である。学ぶ意義を認識させるとともに、自宅での時間の使い方を含めた生活スタイル全体を見直す指導も必要である。

(2) 健全育成

○生徒	「学校に行くことが楽しい。」	82%
○保護者	「おさんは、楽しく学校に通っている。」	85%
○教員	「不登校への対応や個に応じた生活指導など、すべての生徒が楽しく学校生活を送れるような配慮や指導の工夫をした。」	92%

○生徒	「先生は、あなたのようによところを認めてくれている」	91%
○保護者	「教員は、おさんをよく理解し、よところを認めてくれている」	87%
○教員	「一人一人の生徒を認め、力を引き出す指導ができた。」	92%

○生徒	「学校や家庭、地域の中で、自ら進んで挨拶をしている」	81%
○保護者	「おさんは、家庭や学校、地域の中で挨拶ができている」	82%
○教員	「挨拶ができる生徒を育てるために、自ら進んで挨拶をしている」	100%

○生徒	「時間を守る・身だしなみを整える等の決まりを守ることができた」	94%
○保護者	「おさんは、決まりを守ることができている」	81%
○教員	「時間を守る・身だしなみを整える等の指導を学年学級で行った。」	100%

○生徒	「いかなる理由があっても「いじめは絶対にいけない」気持ちを持っている」	100%
○保護者	「学校は、教育活動を通じて、いじめのない学校づくりに努めている」	84%
○教員	「いじめを未然に防ぐ心の教育や、思いやりを育む指導ができた」	100%

- ・どのアンケート項目も生徒、保護者ともに肯定評価が80%以上であり、「いじめは絶対にいけない」は生徒の100%が肯定評価であり、「良さを認めてくれている」は生徒の91%、保護者の87%が肯定評価であった。安全安心で認められる環境づくりが、自尊感情や自己肯定感を高めることにつながっている。

- ・また、本校は各教室に校訓【礼節】を掲げている。社会的自立に向けての基礎として捉え「凡事徹底」をモットーに基本的な生活態度や生活習慣の育成を組織として粘り強く丁寧に行うことを継続していくことが大切である。

○生徒「日常生活の中で、自己の体力向上のために主体的に取り組んでいる。」	57%
○保護者「お子さんは、自己の体力向上のために意欲的に取り組んでいる。」	69%
○教員「生徒の体力向上を意識し、積極的に取り組んだ。」	58%

- ・体力向上については三者ともに低い肯定評価となっており、教職員の意識を高め、指導の充実を図っていく必要がある。

○生徒「避難訓練やセーフティ教室（SNSのマナー）や安全指導日に学んだことを活かし、適切に行動することができる。」	88%
○保護者「学校は災害に対する知識や自分の安全を守るための対処の仕方など確実に身に付けさせるとともに、家庭においても適切な行動選択ができるよう指導に努めている。」	76%
○教員「生徒に交通安全防止や災害から身を守る知識・技能等、確実に身に付けさせることができた。」	92%

○生徒「主体的に感染症防止に努めている。」	93%
○保護者「学校は、感染症への予防に努め、その対応は適切であった。」	83%
○教員「感染症防止について理解させ、適切な行動がとれるよう指導を行った。」	92%

- ・安全教育の肯定評価は教職員・生徒と保護者の間に約10ポイントの差がある。またSNSによるトラブルは年間を通して多くあり、情報モラル教育を中心に、より保護者と連携しながら安全教育を進めていく必要がある。

○生徒「年度初めや学期初めに自己の目標を定め、努力したり、自分の将来や夢の実現について考えている。」	84%
○保護者「学校では、学習や行事等を通して生徒に将来の夢や目標をもたせ、将来の自立に向けた教育をしている。」	79%
○教員「学習や行事等の日々の教育活動を通して、夢や希望をもたせ、将来の自立に向けた指導を行った。」	100%

○生徒「生徒会活動や委員会活動、係の仕事等に意欲的に取り組んでいる。」	89%
○保護者「お子さまは生徒会活動、委員会活動、係の仕事等に意欲的に取り組んでいる。」	78%
○教員「生徒会・委員会・行事の委員やクラスの係活動等を通して、生徒の主体性を高める指導を行った。」	83%

- ・キャリア教育に関しては教員の肯定評価が100%であるが、生徒は84%、保護者は79%の肯定評価であり、ガイダンス等も含めて、より系統立てたキャリア教育の充実をはかる必要性がある。

(3) 学校運営

- ・教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、緊密な連携のもとに教育活動を進めることができた。今後も職場風土を大切にしていく。
- ・教職員の特別支援教育の理解を深めることができた。今後は校内支援委員会をさらに機能させていく必要がある。

○生徒「学年だよりや学校だより、学校のホームページを読んだり見たりしている。」	48%
○保護者「学年だよりや学校だより、学校のホームページを読んだり見たりしている。」	75%
○教員「学年だよりや学校だよりや学校のホームページなどで情報発信に努めている。」	92%

- ・情報発信について、周知の仕方なども含めて、工夫が必要である。

(4) 特色ある学校づくり

○生徒「体育祭や音楽会などの行事に意欲的に取り組んでいる」 92%

○保護者「お子さんは、体育祭や音楽会などの行事に意欲的に取り組んでいる」 84%

○教員「学校行事を通して、人間関係づくりや自尊感情の向上に取り組んだ」 100%

- ・教職員、生徒、保護者ともに80%以上の肯定評価となっており、今後もより達成感や自尊感情、帰属意識の醸成を図れるようにしていく。
- ・「地域防災・安全指導」「地域の人材から学ぶ」「学校・地域美化活動」「挨拶運動等の健全育成」など地域を巻き込んだ、生徒が主体となって活躍できる場を多く設定することができ、達成感を得ることができた。
- ・CS委員会は年間6回開催でき、具体的な活動も充実し、地域貢献・ボランティア精神の涵養につながった。CS委員会を持続可能な組織とするための人材の確保が今後の課題である。

3 自己評価に対する改善策

(1) 学力向上

- ・福生市教育委員会研究奨励校として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業やICTを活用した授業研究に取り組む。
- ・系統的なキャリア教育に取り組み、教科横断的な視点で内容を編成し、自己実現ために、自己理解や人間関係形成能力、確かな学力を身に付ける意義を理解させる。
- ・発達に応じた支援を充実させるとともに、家庭と連携して学習習慣の確立に取り組む。

(2) 健全育成

- ・生徒が他者との関わりの中で、認められ、感謝される体験や教師が生徒を観察し、励まし、自信をもたせる指導を積極的に行うことで自尊感情を高める。
- ・校訓【礼節】を掲げ、社会的自立に向けての基礎として捉え「凡事徹底」をモットーに基本的な生活態度や生活習慣の育成を組織として粘り強く丁寧に行うことを継続していく。
- ・美校会、挨拶運動、落ち葉掃き清掃など、地域に貢献する活動やボランティア活動などを通し、より良く生きる基盤となる道徳性や社会性、自己有用感及び自尊感情を養う。
- ・「安心安全で認められる学校（魅力ある学校）」を目指し、いじめ、不登校生徒の発生の減少につなげる。
- ・体力テスト等の分析により、全教員が本校生徒の体力についての実態を把握し、体力は気力の源になるという認識の下に、体力向上に向け、計画的・継続的・組織的に推進していく。
- ・体育祭と音楽会を三中の2大行事と位置付け、その企画・運営に生徒が主体的に取り組むことを重視し、生徒一人一人の自尊感情や自己肯定感を高めることで、自信や意欲につなげる。
- ・キャリア教育に関してはガイダンス等も含めて、より系統立てたキャリア教育の充実を推進する。
- ・生徒会活動を重視し、失敗を恐れずに新しいことにも積極的にチャレンジできる生徒の育成を図る。

(3) 学校運営

- ・教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、心理的安全性を確保し、個々の強みを生かし、組織として協働し、教育活動を進める。
- ・教職員の特別支援教育の理解を深めることができた。今後は校内支援委員会をさらに機能させていく。
- ・学校としての方針や考え方を明確にして、情報発信を通して教職員・生徒・保護者・地域が考え方や情報の共有を図ることができるようにする。
- ・保護者が学校の方針等を理解し、教職員と連携を図り子供の指導を行えるようにする。

(4) 特色ある学校づくり

- ・地域の理解や協力を得て、総がかりで子供を育てる風土の醸成を図る。
- ・CS委員会を核とした活動（「学校環境美化」「地域人材活用（地域の方に学ぶ講座）」「地域防災・安全指導」「健全育成（挨拶運動等）」）など、さらなる充実に向けて企画・実践していく。
- ・CS委員会のメンバーを中心に地域人材の発掘を行う。

4 学校関係者評価の総括

＜CS 委員からの指摘内容＞

- ・授業を参観した感想は、話し合い形式の授業が多く見られるなど、教員の工夫が感じられる。多くの生徒が落ち着いて授業を受けていて安心できる。
- ・教師が一方的に教え、生徒がそれを聞くだけの授業ではなく、生徒同士が相談したり、教え合ったりしている授業が増えつつあるように思う。授業形態の変化を強く感じた。
- ・地域行事「総合防災訓練」や「四地区合同水防災訓練」「富士見公園の清掃」「七五三挨拶運動」等、地域での三中生への期待度が高まってきている。防災意識の向上という点においてもその貢献度が高く、特に地域の高齢者からの評価も今年も高かった。与えられた仕事を笑顔で取り組む生徒の姿に、CS 委員も多くのエネルギーをもらうことができた。
- ・道徳授業地区公開講座において、深く考えさせる工夫や発問の工夫も感じられた。また、授業後の意見交換会も現在の社会のモラルや道徳性について学校、保護者、地域で考え、共有できたことはよい取り組みであった。
- ・CS 委員会の活動の持続可能性についても考えていく必要がある。

5 学校関係者評価に対する改善策

全体として学校の教育活動、課題解決の方向については一定の評価を得ていると考える。その上で以下の3点を課題として、次年度に取り組んでいく。

- ・地域の理解や協力を得て、総がかりで子供を育てる風土の醸成を図る。
- ・CS委員会を核とした活動（「学校環境美化」「地域人材活用（地域の方に学ぶ講座）」「地域防災・安全指導」「健全育成（挨拶運動等）」）など、さらなる充実に向けて企画・実践していく。
- ・CS委員会のメンバーを中心に地域人材の発掘を行う。

6 総括的な学校評価

本年度の評価を受けて以下の点を重視し学校運営に取り組んでいきたい。

1 キャリア教育の充実

系統的なキャリア教育に取り組み、教科横断的な視点で内容を編成し、自己実現ために、自己理解や人間関係形成能力、確かな学力を身に付ける意義を理解させる。また、発達に応じた支援を充実させるとともに、家庭と連携して学習習慣の確立に取り組む。

2 授業力向上

福生市教育委員会研究奨励校として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に全教員で取り組む。

3 健全育成の推進

生徒が他者との関わりの中で、認められ、感謝される体験や教師が生徒を観察し、励まし、自信をもたせる指導を積極的に行うことで自尊感情を高め、失敗を恐れずに新しいことにも積極的にチャレンジできる生徒の育成を図る。また、校訓【礼節】を掲げ、社会的自立に向けての基礎として捉え「凡事徹底」をモットーに基本的な生活態度や生活習慣の育成を組織として粘り強く丁寧に行う。

4 体力向上

体力テスト等の分析により、全教員が本校生徒の体力についての実態を把握し、体力は気力の源になるという認識の下に、体力向上に向け、計画的・継続的・組織的に推進していく。

5 学校組織としての教育力の向上

教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、心理的安全性を確保し、個々の強みを生かし、組織として協働し、教育活動を進める。校内支援委員会もさらに機能させていく。また、学校としての方針や考え方を明確にして、情報発信を通して教職員・生徒・保護者・地域が考え方や情報の共有を図ることができるようにする。

6 地域総がかりで子供を育てる風土の醸成

CS委員会を核とした活動（「学校環境美化」「地域人材活用（地域の方に学ぶ講座）」「地域防災・安全指導」「健全育成（挨拶運動等）」）のさらなる充実に向けて企画・実践していくとともに地域人材の発掘を行う。